

生きる喜び 感じる街に！

世田谷区議会議員

ケアマネジャー・介護福祉士

立憲民主党  
The Constitutional  
Democratic Party of Japan

# 中塚さちよ



1975年 札幌市生まれ

成城大学大学院（文学）及び明治学院大学大学院（社会福祉学）修了  
福祉のスペシャリストをめざし、介護職員として働きながら大学院に通う  
衆議院議員小宮山洋子事務所政策スタッフ、シンクタンク研究員を経て現職  
「現場の努力だけでは解決できない多くの課題を、  
政治の力で良くしていきたい」と区政への挑戦を決意  
現場主義を貫き、区内介護事業所でケアマネジャーとしても勤務  
40歳で子宮頸がん発症。がん患者支援活動にも着手

世田谷区議会  
REPORT

2022年 春号

2021年度の区政の大きな課題は、前年度に引き続き新型コロナウイルスへの対応でした。ケアマネジャーでもある中塚さちよは、長引くコロナ禍で苦しむ区民や介護現場の視点から、改善策を提案してまいりました。

## 介護従事者の待遇格差改善と人材確保の支援について

### ●ワクチン優先接種とヘルパーへの手当が実現

新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、すべての介護・福祉従事者は緊張の中で仕事を続けてきました。しかし、訪問介護などの在宅系サービス従事者はワクチンの優先接種も除外、感染者に対応しても手当もない状況で、入所施設の介護職員と比べて厳しい労働環境にありました。

中塚さちよは介護関係者や会派メンバーと共に、国会議員や世田谷区長への働きかけを行い、ワクチン2回目の優先接種が実現。感染者の対応をした訪問介護ヘルパーへの手当も、国の見解を踏まえた額を支給し、かつ働く人にきちんと行き渡るよう、区に要望しました。

（令和4年 予算特別委員会）

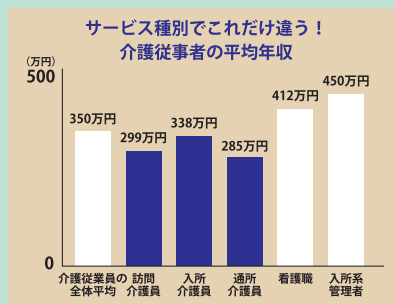
### ●地域の中小事業者への支援強化を要望

国や区が提供する介護従事者の待遇改善のための支援策は大手・入所施設向けのもが多く、小規模事業者、訪問や通所など在宅介護サービス事業者には使いにくい。働く人の待遇にも格差が生じています。ヘルパー不足は深刻で

すが、この給料では人が集まりません。

人材確保や待遇改善に役立つ助成金・補助金の案内や申請書類の負担軽減など、中小事業者・従事者向けの支援の強化を求めました。

（令和3年第4回定例会）



出典：みんなの介護「NCCU（日本介護クラフトユニオン）の資料を元に作成」（2019年4月掲載）  
<https://www.minnanokaigo.com/news/kaigogaku/no676/>

## コロナ感染者・自宅療養者への対応の改善について

コロナの第5波で、中等症に近い症状にもかかわらず自宅療養になった方から、「保健所から何日も連絡が来なかった。保健所と委託業者、医療機関の情報共有が全くなされておらず、息が苦しいのに、電話で何度も同じ事を説明させられてとても辛かった」等の訴えがありました。

議会からの度重なる改善要望にもかかわらず、感染者が急増すると保健所の電話がすぐにパンクする事態が繰り返されています。区は見通しの甘さを早急に改めるべきです。

（令和3年第4回定例会）

# 2021年度 世田谷区政を振り返る

衆議院議員 落合 貴之

対談

世田谷区議会議員 中塚さちよ

**落合**：2021年度、基礎自治体に取り組まなければならないことは新型コロナ対策だったと思います。世田谷区の新型コロナウイルス対策として、一番の課題はどんなことでしたか。

**中塚**：区では「PCR検査」と「ワクチン接種」の二本柱で感染対策を進めてきました。保坂展人区長の独自政策として介護事業者等に対し実施したPCR検査は、評価もされましたが、疑問に思うこともありました。

私は区議会議員であると同時にケアマネジャーとして介護現場で働く立場でもあり、「現場の負担を解消してコロナ対策を進めていかなければ」という思いから、何百もの介護事業者にアンケートを取ったり、区長に対しかなり意見を言ったりもしました。そこは忖度せず、現場の不安や不満に応えていきたいと活動した一年でした。

一方で、東京都の事業の一環として川崎重工業が世田谷区内で無料PCR検査を実施してくれたり、楽天が介護事業者向けにワクチン接種を提供してくれたり。3回目の接種では、狛江市や目黒区がワクチンを融通してくれました。民間企業、近隣自治体が動いて、世田谷区を助けてくださったこともお伝えしておきたいです。

**落合**：中塚さんはケアマネの仕事をしてながら世田谷区政に携わり、実際の介護現場の声を世田谷区政に届けている、それはとても重要なことだと思います。一方で、区議会議員としてほかにも取り組まなければならないことも多くあります。福祉・介護以外で、中塚さんが関心があることはどのようなことですか。

**中塚**：今あえて申し上げますと、行革、行財政改革ですね。と言っても、保健所職員を減らした大阪のようになってしまっただけはいけません。保健所が逼迫して人口あたりの重症者数、死者数が全国ワーストです。単に税金を削ることでなく、必要などころに無駄なく税金が活かされるようにする。そういう「理念のある行革」を私は進めたいと思っています。

例えば、今回の予算特別委員会で私が強く提案した行財政政策も、それに関連しています。新しい庁舎や学校を建てるために区債を発行、つまり借金をするわけですが、それならば確実に環境負荷の少ない建物を作るよう縛りをかけられる「ESG債」にしてはどうか。区の答弁は借金だから慎重に考えたいといわれたけれど、どのみち借金はするんですよ。30億以上。それを環境対策に活かしてほしいということです。

**落合**：ESG投資は世界のマーケットで今、本当にはやっていますよね。行政においても、とても重要な視点だと思います。ところで中塚さんは最近、初当選の頃に使っていた「生きる喜び 感じる街に！」というキャッチコピーを改めて使うことにしたと聞きました。なぜ今そのキャッチコピーを使おうと思ったのですか。

**中塚**：次はもう選挙も5回目、「初心に戻る」ということもあります。もう一つ、この間にがんを経験したことも影響しています…

続きはぜひ、中塚さちよ  
ホームページをごらんください！



がんの  
経験から…

## 資産を地域に役立てる「遺贈寄附」の仕組みを提案

(令和3年 決算特別委員会の質疑より)

7年前に、手術もできないまでに進行したがんが見つかり、志半ばでこの世を去る可能性が高まりました。その時、子どもがいない私が真剣に考えたのは、自分の死後に残る貯金や保険金など、なけなしの資産をどこに託すかということでした。奈良県生駒市は「人生最期にふるさとに貢献したい」という市民の思いをいかすため、信託銀行を通し市が遺贈寄付を受ける仕組みを導入。岐阜市、千葉市などでも遺贈寄付を受け取れるよう銀行と提携しました。

相続税は国税のため、自治体には1円の収入にもなりません。一方、自治体への寄付は相続税がかからず、寄付金控除など相続人にもメリットがあります。資産を街に役立てたいという温かい気持ちを、区の収入にいかせる仕組みの導入を求めました。



※ご意見・ご相談はこちらまで

世田谷区議会議員 中塚さちよ事務所

〒156-0054 東京都世田谷区桜丘 5-22-15 (移転しました)

TEL: 03-3429-6078 FAX: 03-4586-6343 MAIL: nakatsukasachiy@gmail.com